令和7年度全国学力・学習状況調査　上川町内の状況及び今後の改善方策

小学校数:1校、児童数:15人　中学校数:1校、生徒数:14人

○ 教科に関する調査の状況

【レーダーチャート】

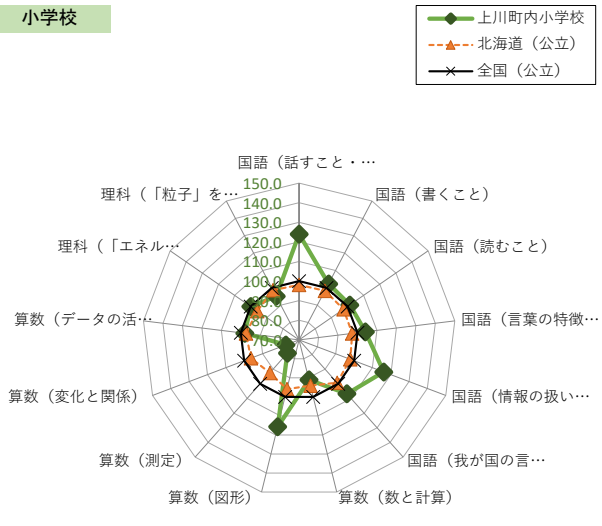
・教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

・中学校理科の結果は、IRTスコアで表されるため、レーダーチャートに表示していません

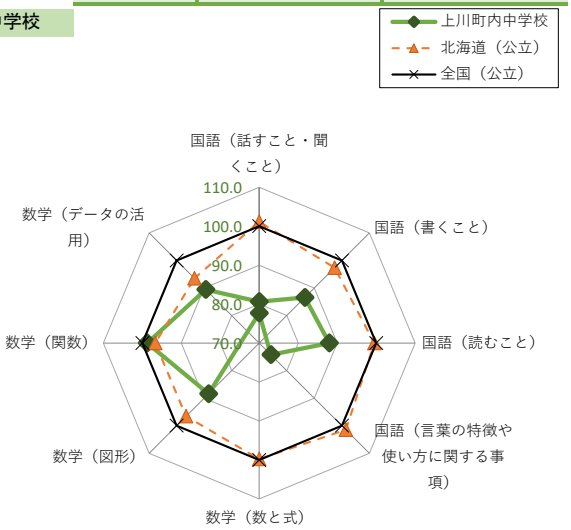
【平均正答率・平均IRTスコア】　※中学校理科は平均IRTスコア

	小学校			中学校		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
上川町	72	56	60	45	40	486
北海道（公立）	65.4	55.2	56.3	54.0	46.7	505
全国（公立）	66.8	58	57.1	54.3	48.3	503

小学校



中学校

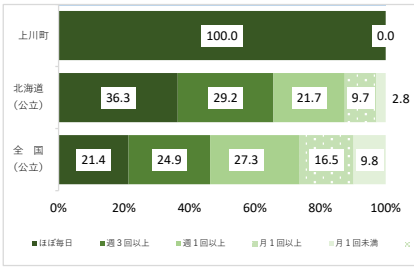


○ 質問調査の状況

小学校

＜学校質問＞

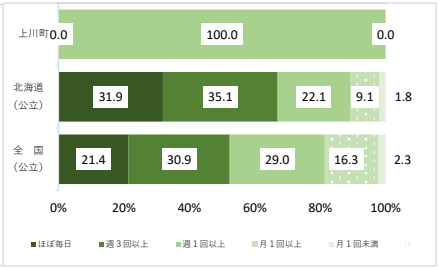
児童同士がやりとりする場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか



中学校

＜学校質問＞

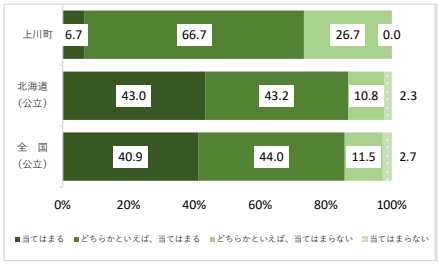
生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか



小学校

＜児童質問＞

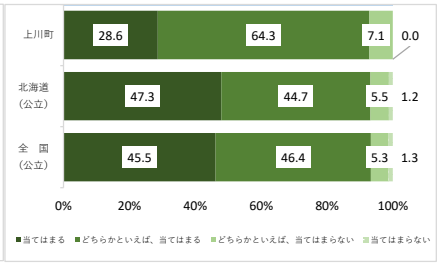
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



中学校

＜生徒質問＞

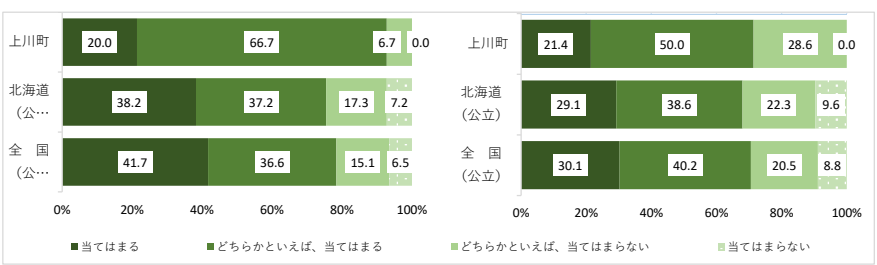
授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか



小学校

＜児童生徒質問＞

算数[数学]の授業の内容はよく分かりますか



中学校

○ 調査結果の分析

- 小学校では国語・理科の回答率が全道・全国平均を上回っており、算数についても全道平均を上回る結果となったが、中学校ではすべての教科で全道・全国平均を下回る結果となった。

- 小学校・中学校ともに算数（数学）の平均正答率が一番低いが、授業の内容はよくわかるかとの質問には小学校で86．7%、中学校で71．4%の児童生徒がどちらかといえばよくわかる以上の回答をしており、児童生徒の学習内容の理解に対する認識と正答率に少なからずずれが生じていることから、授業中は内容が概ね理解できているものの、内容の定着に一定の課題があるものと考えられる。

- 学校内でのICT機器の活用については週1回以上の活用があるが、学習習慣の定着に向けた活用方法の研究、検証を通してより効果的な活用に取り組むことが必要であると考えられる。

○ 今後の改善方策

- 児童生徒の授業の理解度等に応じた指導方法の工夫改善を図ることによる児童生徒一人一人の資質・能力を確実に育成する取組の推進

- ICT端末を活用した学習支援ソフトによる家庭学習の習慣化を図る取組の推進

- 小学校及び中学校における確かな学力の向上に向けた学習サポート教員や専門スタッフの配置促進